

円形ホールフェア 「18 世紀音楽祭協会 20 年の歩みからバッハの現在形へ」

福岡古楽音楽祭等の主催を通して、福岡市を中心に「古楽」の振興をはかってきたボランティア団体「18 世紀音楽祭協会」は今年で設立 20 周年を迎えます。この「円形ホールフェア」は、第 10 回記念福岡古楽音楽祭「グランドコンサート」の開催に先立ち、その会場となるアクロス福岡の 1 階にある円形ホールを中心に 3 日間、これまで 20 年間の協会の歩みをご紹介します。古楽音楽祭の将来を展望するとともに、音楽祭のテーマである J.S. バッハ (1685~1750) の音楽が持つ現代的な意義を、現代音楽、現代アート、アジアの音楽等の視点から再考するイベントです。「円形ホールフェア」は、一般市民の皆様を対象にして、すべて無料で開放する催しです。大勢の方々のご参加をお待ちしています。

円形ホールでのイベント「バッハの現在形」

10
Wed

Program 1 18:30~19:00 ＜バッハとコンテンポラリー・ダンス＞

「ゴルトベルク変奏曲のアリアを踊る」
清水知恵 (舞踏家)、阿部 守 (美術家)

清水知恵のダンスが紡ぎ出す、美しい一瞬。J.S. バッハ『ゴルトベルク変奏曲：アリア』からインスピレーションを得て、繊細さとダイナミックさが融合するシャープな時空間がオープニングを飾ります。舞台美術は、現代先鋭造形作家・阿部 守が手がけています。ご期待下さい。

10
Wed

Program 2 19:00~21:00 シンポジウム ＜バッハとアジアの音楽＞

朴 哲弘 (作曲家・韓国東亜大学)、中村滋延 (作曲家・九州大学)、姜 榮晩 (ピアニスト)、山本佳代子 (ピアニスト)、栗原詩子 (音楽学・西南学院大学)

日韓の作曲家・演奏家のバッハ観と、バッハ研究の現状を振り返り、バッハが今日のアジアの音楽シーンに与える可能性をさぐります。中村滋延「バッハにもとづく組曲」と朴哲弘「スイッチング・バッハ」の抜粋再演もお楽しみに。

11
Thu

Program 3 15:30~17:00 講演会 ＜バッハと祝祭空間＞

京谷啓徳 (西洋美術史・九州大学)

バッハも一時期宮廷楽長として身を置いていた当時のヨーロッパの諸宮廷では、様々の機会に祝祭がとり行われ、それは美術家や音楽家たちの共同作業によって華麗に演出されていました。凱旋門や山車行列、活人画など、ルネサンスからバロック期の宮廷祝祭の様子をご紹介します。

11
Thu

Program 4 18:00~19:30 演奏とお話 ＜古楽への招待＞

前田リリ子 (お話とフルート)、福沢宏 (ガンバ)、三浦弥生 (チェンバロ)

前半は隣のコミュニティエリアで「ミュージックファクトリー」の企画によるコンサート、後半は円形ホールでのレクチャーコンサートで、バッハの組曲 2 番やルクレールのトリオソナタ等の演奏を通して、音楽祭に参加した古楽器奏者が古楽器による演奏の特色を易しく解説します。

12
Fri

Program 5 15:30~17:00 講演会とミニコンサート ＜有元利夫と音楽＞

共催/福岡 EU 協会

「有元利夫と音楽」 有元容子 (日本画家)
古楽器による演奏 有元利夫版画集「7つの音楽」、「ロンド」
野田よう子・須藤千津子 (リコーダー)、後藤桂子 (チェンバロ)

福岡古楽音楽祭のポスターにいつも使われている有元利夫の絵から「古楽」の響きが聞こえてきます。少年時代誰もが通るギター、ドラム、ビートルズ・・・、東京芸大で音楽学部の学生と一緒に学んだリコーダー、初めて知った古楽の世界。有元利夫の作品と音楽の関係性についてのお話です。

アクロス福岡 1 階での常設展示

■円形ホール 9月10日~12日 (各日 12:00 より開館) 有元利夫のタブロー 2 点、版画 10 点ほどのミニ展覧会をホール内で行うほか、イベントの合間には、スクリーンにて過去の福岡古楽音楽祭記録映画等を映写します。

■コミュニケーションエリア 9月1日~15日 「古楽とはなにか？」音楽史の中で「古楽」の持つ意義や古楽器についてのパネル展示。

■アトリウム 9月10日~13日 「18 世紀音楽祭協会 20 年の歩み」有元利夫画の福岡古楽音楽祭ポスターと、写真等によるパネル展示。

●このほか円形ホールでは、会長中里 隆 (隆太窯) 制作の音楽祭記念湯呑みや、有元利夫絵はがき等の販売も行います。

PROFILE

清水知恵 Chie Shimizu (舞踏家)

筑波大学大学院修士課程、九州大学大学院博士課程修了。博士 (人間環境学)。第 4 回 NBA 全国バレエコンクール・コンテンポラリー部門ガリーナ・サムソバ審査委員長賞受賞。平成 15 年度文化庁新進芸術家在外研修員 (フランス国立現代舞踊センター、Jacky Taffanel 舞踊団)。現在、福岡教育大学准教授。

朴哲弘 Park Chul-Hong (作曲家)

釜山大学校卒業。東亜大学校大学院修了。舞踏、演劇、放送、映画音楽など 500 曲あまりを作曲。代表作としてミュージカル「ドル＝ブル (野草)」、ミュージカル「ジャカルチ」(ともに 2000 年) などがある。現在、東亜大学校芸術大学音楽学部教授、同校大学院実用音楽科長、同校教育大学院音楽教育科責任教授。

中村滋延 Shigenobu Nakamura (作曲家・メディアアーティスト)

愛知県立芸術大学大学院修了。ミュンヘン音楽大学に留学。「現代音楽」分野で多くの創作活動を行い、日本音楽コンクール 2 度入賞、ガウデアムス作曲コンクール AVRO 奨励賞、日本交響楽振興財団賞など受賞。映像を取り込んだ音楽系メディアアートの領域でも創作活動を行っている。ZKM (ドイツ) 客員芸術家、九州大学芸術工学研究院教授。

京谷啓徳 Yoshinori Kyotani (西洋美術史)

東京大学大学院修了。博士 (文学)。フェッラーラ大学およびヴェネツィア大学に留学。2004 年、マルコ・ポーロ賞・地中海学会ヘレンド賞を受賞。著書に『ボルソ・デステとスキファノイア壁画』『ボッティチェリ全作品』(ともに中央公論美術出版)。九州大学人文科学研究院准教授。

前田リリ子 Liliko Maeda (バロックフルーティスト)

オランダのデン・ハーグ王立音楽院大学院修了。山梨古楽コンクール第 1 位、ブルージュ国際古楽コンクール 2 位入賞 (フルートでは最高位)。全国各地で演奏会を催すとともに、ソロ CD「バッハとその同時代の作曲家達によるフルート音楽」「パリのフルート音楽」などをリリース。著書「フルートの肖像 (東京書籍)」。東京芸術大学非常勤講師。

有元容子 Yoko Arimoto (日本画家)

東京芸術大学美術学部絵画科日本画卒業。芸大時代に知り合った有元利夫と結婚。1978 年春季創画会展で春季賞受賞。1985 年 38 才で有元利夫逝去。88~89 年唐津隆太窯で陶芸を学ぶ。98 年河北倫明賞受賞。個展・グループ展に毎年多数出展。02 年に有元利夫と共著「花降る日」を新潮社より出版。実践女子大学美学美術史学科教授。